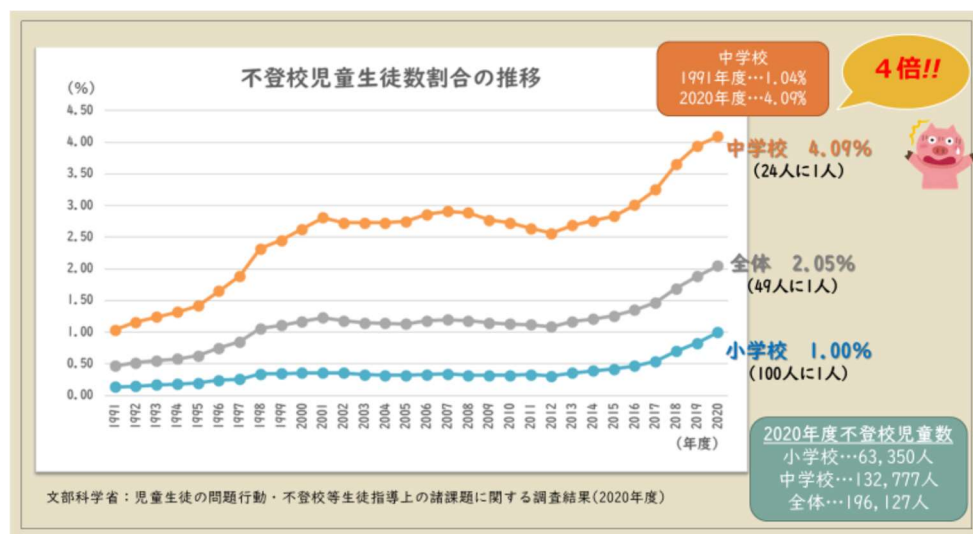


「不登校や登校しぶりのあるお子さんと親のサポートについて」

特定非営利活動法人みらぼて

1.事業が目指すところ

不登校問題は、学校と家庭だけでは解決しにくい。しかし、行政や学校のサポート対象外であったり、支援を受けられず親子共に居場所がなく孤立感を抱えている。また、小野市には学校へ行きづらい子どもと親の居場所づくりやサポートをする団体がなく、悩みや進路相談など気軽に相談できない状況があり、専門的な機関の回答で親も子も追い込まれてしまうこともある。当事者の親であるスタッフが自身の経験を活かし運営・サポートすることで、気持ちに寄り添い気軽に話せる関係を築き、安心できる居場所となり外にいけなかった子どもや親が人目を気にせず、社会に出ようとするきっかけ作りを目指す。



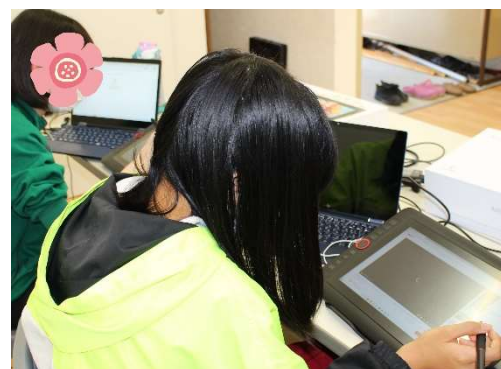
2.活動内容

(1) 子どもの居場所【みらぼてLAB.】

不登校や引きこもり、登校しぶり等学校生活に問題を抱えるお子さんの居場所作り

実施日/4月～3月(毎週月曜日)、対象/学校へ行きづらさを抱える児童・生徒

内容/パソコン、料理、手芸、工作など利用する子どもたちが取り組みたい事を決める



(2) 無料相談

子育てに不安を感じている保護者と、学校へ行きづらさを抱える児童・生徒からの相談を電話やSNSにて24時間受付や、対面などにて対応

実施日/4月～3月(オンライン・対面で、随時)

内容/進学相談、生活相談、医療機関等の紹介、行政や専門窓口へ取り次ぐなど

3.成果や課題点

(1) 成果：子どもの居場所では、同じ趣味を持つ気の合う仲間ができ、週に一度の自分の時間を持つことで心が安定し、生きる気力がわいた。その結果、短い時間でも少しずつ登校することへと繋がった。月曜日は居場所に行くという1週間のルーティーンが出来



来、生活にメリハリが出来てきた。また、やりたい事を見つけ、将来のことを考え自ら進路について調べるようになった。無料相談ではLINEでの相談も受け付けており、相談者が限界になる前に相談することや吐き出すことで、悩みに対して落ち着いて向き合え、気持ち軽くなることへのサポートができた。また、大人だけでなく関東在住中学生からの相談もあり、長期休み前いじめ相談案件は担当市教育委員会へ連絡することができた

(2) 反省点・課題点：子どもの居場所での反省点は、現在利用している子同士の輪ができ上がって、新しい子が入りにくい。課題点は、他人とのコミュニケーションが苦手な子どもがおり、周囲との壁の払拭方法が難しい（と感じてい



る)。また、居場所開設が週に一度だけと少ないことも信頼関係を築きづらい要因と考える。

無料相談では、オンラインや電話から対面につながった後の対応。

4.今後の展望・成果の活用

子どもの居場所では、新規の子が入りやすい環境づくりをする。また、他者とのコミュニケーションの取り方を無理なく自然と身につけられるようなプログラムを取り入れる。居場所開設回数を増やす。そして、学校へ行きづらさを抱える子どもたちが、校内の別教室や自宅からも同じように授業を受けられるなど、子ども目線に立った学習の場を考え、家庭への経済的負担なく同じように教育を受けられる体制づくりに向け、学校や行政へ働きかける。

また、無料相談では、市外の児童からLINEを通じて相談もあったので、地域外の相談であっても教育委員会や関係機関と共有できるような仕組みづくりとして、連絡協議会を立ち上げる。